

第2章 上位計画・関連計画

2-1 上位計画

石川県では、平成28年3月に「石川県長期構想」を策定し、「個性、交流、安心のふるさとづくり」を基本目標に、石川県が有する質の高い文化の土壌、高い技術を有するものづくり企業や高等教育機関の集積、豊かな自然環境をはじめとした強みを伸ばしながら、人口減少や少子高齢化などの課題克服に向けた取組を着実に進めてきました。

しかしながら、昨今の石川県を取り巻く社会・経済情勢は、「石川県長期構想」の策定当時から大きく変化しており、社会のデジタル化やカーボンニュートラルの推進といった新たな時代の潮流に的確に対応しながら、新たな活力を創出し、石川県をさらに飛躍させていくことが必要となってきました。

こうしたことから、これまで築きあげてきた石川の個性・魅力・基盤を継承し、さらに発展させることに加え、石川県の目指す姿から逆算し、石川県の進むべき方向性を示す新たな羅針盤として、令和5年9月に「石川県成長戦略」を策定しました。

「石川県成長戦略」は、石川県政運営の基本となるもので、県の施策の方向性を総合的かつ体系的にまとめた、石川県最上位の計画であることから、「金沢港将来ビジョン」では、「石川県成長戦略」の目指す将来像の実現に向けて、金沢港の目指すべき方向性を様々な観点から整理し、提示するものです。

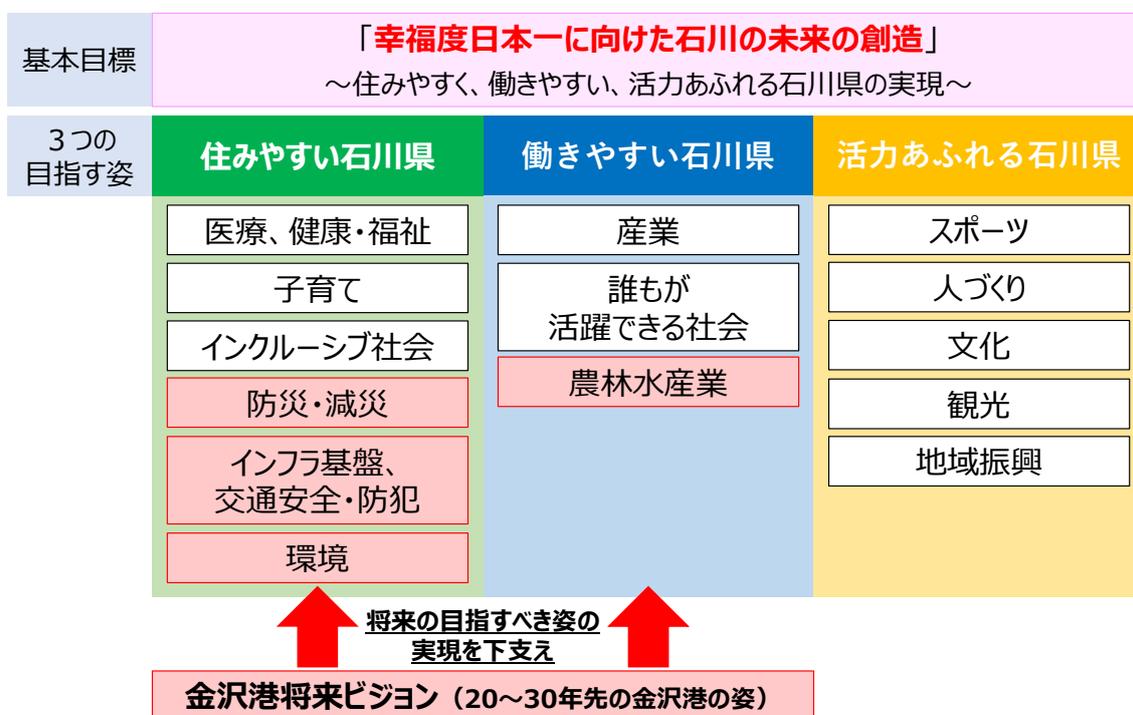


図 2-1 金沢港将来ビジョンの役割

※赤色：石川県成長戦略の中で金沢港に関連する内容（詳細は次頁の表に整理）

表 2-1 石川県成長戦略における金沢港の関連内容

<石川県成長戦略（令和5年）>（計画期間：令和5年～令和14年）

【戦略2：収益力の高い農林水産業と次世代につなぐ農山漁村づくり】							
○施策3 農林水産物のブランド化の推進や里山里海地域の振興							
(1) 農林水産物のブランド化のさらなる推進		③農林水産物の輸出拡大 ●農林水産物の新たな販路開拓と石川県の魅力発信に向けて、海外において特色ある県産農林水産物の魅力を発信するなど、輸出拡大に向けた取組を推進します。					
○施策5 持続性のある水産業の実現							
(2) 県産水産物のブランド化のさらなる推進		●朝どれ水産物など新鮮な水産物の供給を基にした首都圏での販売や観光誘客の拡大に向けた県産水産物の魅力発信 ●生産者と連携した県産水産物の地元消費拡大や水産分野での食育の普及推進					
【戦略3：個性と魅力にあふれる交流盛んな地域づくり】							
○施策4 交流人口の拡大に資する陸・海・空の交流基盤のさらなる充実							
(2) 幹線道路ネットワークの強化		●鉄道、港湾、空港と道路との連携強化による人・ものの円滑な移動の確保(金沢外環状道路、加賀海浜産業道路など)					
(4) 港湾機能の充実による交流促進		①金沢港・七尾港における取扱貨物やクルーズ船の寄港拡大 ●取扱貨物の種類・量の拡大に向けた戦略的なポートセールスの推進 ●金沢港の優位性を活かしたクルーズ船の誘致強化と受入体制整備 ●国内外のクルーズ船誘致による広域観光の促進 ②金沢港・七尾港における国際物流拠点化、賑わいの創出 ●金沢港の将来ビジョンの策定、金沢港港湾計画の改訂 ●船舶の大型化に対応した港湾機能の強化 ●カーボンニュートラルポートの形成の推進 ●金沢港における新たなニーズを踏まえた港湾用地の適正配置とさらなる利活用					
【戦略6：安全・安心かつ持続可能な地域づくり】							
○施策2 安心して快適に暮らせる地域づくり							
(1) 持続可能なインフラ基盤の確保		①インフラ施設の適正な維持管理の推進 ●道路施設・河川管理施設・砂防施設・港湾施設・上下水道施設・公園施設などの長寿命化対策 ③インフラ施設の脱炭素化の推進 ●インフラ施設における再生可能エネルギーの導入（太陽光発電、小水力発電の導入） ●インフラ施設における照明のLED化 ④県民の安全・安心を支える建設業の担い手確保・育成 ●インフラ整備を通じて県民の安全・安心を支える建設業の担い手確保・育成を支援					
(2) 快適に暮らせるまちづくり		①地域の暮らしを支える交通体系の構築 ●市街地の円滑な自動車交通を確保する道路整備（環状・放射道路(泉野々市線、乙丸跨線橋など)、交差点の渋滞対策など）、地域間連絡道路の整備 ●時代の変化に応じた道路空間のリニューアル（道路空間の再配分による歩行者、自転車、シェアカー、電動キックボードなどの安全性の確保） ●パーク＆ライド等による公共交通の利用促進 ②持続可能な地域公共交通の維持・確保・充実 ●市町との連携による生活に不可欠な交通サービスの確保（コミュニティバス、デマンド型交通など） ●鉄道や生活バス路線などの運行維持や設備投資への支援 ④安全・安心な交通環境の確保 ●生活道路の安全性の向上					
【横断的戦略2：カーボンニュートラルの推進】							
○施策4：環境配慮型自動車の普及やモーダルシフトの促進							
②公共交通の利用やモーダルシフトの促進		●パーク＆ライド等による公共交通の利用促進 ●カーボンニュートラルポートの形成の推進 ●信号機や道路照明などインフラ施設のLED化					
参考：金沢港に関連するKPI							
戦略	施策	指標	基準値	目標値 (令和14年度)	指標の説明	出典	
3. 個性と魅力にあふれる交流盛んな地域づくり							
4. 交流人口の拡大に資する陸・海・空の交流基盤のさらなる充実							
		金沢港外貿コンテナ貨物量	71,716TEU (令和1年)	80,000TEU	金沢港の利用状況を示す指標であり、県内企業等の利用拡大により過去のピークの71,716TEUを超える80,000TEUを目指します	金沢港港湾統計年報	
		金沢港クルーズ船寄港数	50本 (令和1年)	60本	金沢港の利用状況を示す指標であり、今後の世界のクルーズ市場の成長と誘致等により、過去のピークの55本を超える60本の寄港定着を目指します	石川県調べ	

2-2 関連計画

前述の上位計画に加え、我が国および北陸地域、石川県、金沢市における金沢港将来ビジョンの関連計画を整理しました。

表 2-2 金沢港将来ビジョンの関連計画（国）

金沢港将来ビジョンの関連計画	
国・北陸地域の関連計画	
○港湾に関連する計画	
港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針 【令和5年3月 国土交通省港湾局】	1 特に戦略的に取り組む事項 (1) 我が国の産業と国民生活を支える海上輸送網の構築と物流空間の形成 (2) 観光立国と社会の持続的発展を支える港湾機能の強化と港湾空間の利活用 (3) 国民の安全・安心を支える港湾機能・海上輸送機能の確保 2 引き続き重点的に取り組む事項 ①地域の暮らし・安心を支える港湾機能の確保 ②あらゆる人に優しく安全で快適な港湾の実現 ③良好な港湾環境の保全・再生・創造 ④循環型社会のより一層の進展とグローバル化に対応した静脈物流網の強化 ⑤国土の保全への配慮 ⑥国際海上輸送の信頼性と安全性を確保する港湾保安対策等の推進 ⑦港湾空間に求められる多様な要請への対応と港湾空間の適正管理 ⑧新たな海洋立国の実現に向けた海洋政策の推進 3 時代の変化に対応するとともに生産性の高い港湾マネジメントの推進に向けて取り組む事項 ①サイバーポートによる港湾の電子化 ②AIターミナルの実現によるコンテナターミナルの生産性向上及び良好な労働環境の確保 ③持続可能な港湾開発等のための港湾関連技術の生産性向上及び働き方改革の推進 ④柔軟性を持ったストックマネジメントと港湾間の連携の推進
2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略 【令和3年6月 内閣官房ほか】	【洋上風力】 魅力的な国内市場の創出に政府としてコミットすることで、国内外からの投資の呼び水とするため、政府として導入目標を明示する。具体的には2030年までに1,000万kw、2040年までに浮体式も含む3,000万kw～4,500万kwの案件を形成する。2019年4月に施行された再エネ海域利用法に基づき、着実に案件形成プロセスを進めていく。また、系統や港湾等のインフラ整備を計画的に進めていく。 【カーボンニュートラルポート】 我が国の輸出入の99.6%を取り扱う物流拠点であり、かつ我が国のCO2排出量の約6割を占める産業の多くが立地する産業拠点である港湾において、水素・燃料アンモニア等の大量かつ安定・安価な輸入や貯蔵・配送等を図るとともに脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化や臨海部産業の集積等を通じて、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラルポート（CNP）」を形成し、2050年までの港湾におけるカーボンニュートラル実現を目指す。
北陸管内港湾の中長期構想(北陸港湾ビジョン) 【令和3年3月 国土交通省北陸地方整備局港湾空港部】	【物流】“繋げる”北前船 ～地域経済の成長力を底上げする物流の多様化・高度化～ 【産業】“地域とともに発展する”北前船 ～地域産業を支える日本海側エネルギー拠点の形成・循環型社会の構築～ 【防災】“国土全体を守る”北前船 ～自然災害から国民のいのちと暮らしを守る北陸港湾の強靱化～ 【維持管理】“技術発展により持続する”北前船 ～北陸港湾におけるスマートインフラの実現～ 【観光】“賑わいをつくる”北前船 ～多様なニーズに対応したクルーズ振興と地域連携による“楽しみなど”づくり～
港湾の中長期政策「PORT2030」 【平成30年7月 国土交通省港湾局】	【中長期政策の方向性（8本柱）】 1 グローバルバリューチェーンを支える海上輸送網の構築 2 持続可能で新たな価値を創造する国内物流体系の構築 3 列島のクルーズアイランド化 4 ブランド価値を生む空間形成 5 新たな資源エネルギーの受入・供給等の拠点形成 6 港湾・物流活動のグリーン化 7 情報通信技術を活用した港湾のスマート化・強靱化 8 港湾建設・維持管理技術の変革と海外展開 ※令和4年6月フォローアップの実施 ・新型コロナウイルス感染症の流行による国際サプライチェーンの強靱化への要請の高まりやデジタル化の加速への対応 ・ロシアによるウクライナ侵攻も踏まえた脱炭素化の動き（GX）の加速への対応 ・国際クルーズ等の人流（貨物船の乗船員等も含む。）への水際・事後対応 ・軽石漂流など新たな自然災害への対応
○地域に関連する計画	
国土強靱化基本計画 【令和5年7月 内閣官房】	●国土強靱化の基本目標 ①人命の保護 ②国家・社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持される ③国民の財産及び公共施設に係る被害の最小化 ④迅速な復旧復興 ●国土強靱化を推進する上での基本的な方針【5本柱】 ・国民の生命と財産を守る防災インフラ（河川・ダム、砂防・治山、海岸等）の整備・管理 ・経済発展の基盤となる交通・通信・エネルギーなどライフラインの強靱化 ・デジタル等新技術の活用による国土強靱化施策の高度化 ・地域における防災力の一層の強化（地域力の発揮） ・災害時における事業継続性確保を始めとした官民連携強化
新たな北陸圏広域地方計画 【令和5年7月 国土交通省北陸地方整備局北陸圏広域地方計画推進室】	●将来像：住み心地・居心地よく、多彩な魅力を活かして躍動する北陸 ●目標 【目標1】北陸圏での魅力ある暮らしの実現 ～生活環境・雇用環境の充実と安全・安心かつ環境と調和した地域づくり～ 【目標2】競争力のある産業の育成 ～北陸における経済・生産の一層の活性化～ 【目標3】日本海側の中枢圏域の形成 ～日本海側圏域及び太平洋側圏域との連携強化～ 【目標4】交流・関係人口の創出 ～北陸の魅力を活かした国内外との交流・関係の創出～

表 2-3 金沢港将来ビジョンの関連計画（石川県）

金沢港将来ビジョンの関連計画	
石川県の関連計画	
○ 港湾に関連する計画	
金沢港カーボンニュートラルポート形成計画【令和5年4月】	<p>①基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代エネルギーの供給拠点への転換 → 県内全域への脱炭素化に貢献 ・港湾施設や荷役機械の脱炭素化 → 船会社や荷主に選ばれる港へ ・モーダルシフトの進展（県内企業による利用促進） → 物流における脱炭素化に貢献 <p>②温室効果ガス削減目標 （基準年）2013年度：6.0（千t-CO2） → （中期目標）2030年度：3.8（千t-CO2）36%削減 →（長期目標）2050年度：実質ゼロ</p> <p>③主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代エネルギー運搬船 ・次世代エネルギーの受入施設 ・照明のLED化 ・陸上電力供給施設 ・荷役機械の脱炭素化 ・車両の燃料電池化 ・太陽光発電の導入
○ 地域に関連する計画	
石川県地域防災計画【令和4年】	<p>【一般災害対策編・地震災害対策編・津波災害対策編】</p> <p>●海岸、港湾、漁港の整備対策 人員、緊急物資及び復旧用資機材等の海路による輸送の機能を確保するため、耐震性を補強するとともに必要に応じて耐震強化岸壁を整備する。港湾については、近年の高波災害を踏まえ、耐波性能の照査や既存施設の補強を推進する。</p> <p>●公園、緑地等の整備対策 震災時においては、公園、緑地及び緑道等の果たす役割は、津波により、建物の倒壊等が発生したときの火災の延焼防止、避難路、避難地としてばかりでなく、消防、医療活動の拠点、屋外仮設住居の建設用地等として活用できる。こ</p>
石川県強靱化計画【令和3年】	<p>【港湾の災害対応力の強化】 物流拠点としての機能を確保するため、耐震化を含めた港湾施設の機能強化を図るとともに、緊急物資の受け入れに必要な施設の整備を推進する。</p> <p>【漁船等を活用した緊急時の避難体制】 海に面し、孤立する可能性が高い地区において、漁船等による海上からの避難体制を確保できるよう漁業協同組合へ働きかける。</p> <p>【津波対策等の推進】 海岸保全区域背後の人家や公共施設等を津波等から防護するため、海岸堤防等の整備を推進する。</p> <p>【港湾施設の維持管理】 防波堤や岸壁等の港湾施設の老朽化対策について、施設ごとの維持管理計画等に基づき、計画的な点検や補修・更新を行い、施設の適切な維持管理を実施する。</p>
石川県都市計画マスタープラン【平成30年】	<p>●都市計画の理念：“個性、交流、安心を実現する地域主体の持続可能なまちづくり”</p> <ul style="list-style-type: none"> ○都市計画の目標1 持続可能でにぎわいある集約型のまちづくり ○都市計画の目標2 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり ○都市計画の目標3 活力ある地域拠点の充実と交流のまちづくり ○都市計画の目標4 個性ある景観と豊かで多様な自然を活かしたまちづくり ○都市計画の目標5 地域主体のまちづくり
いしかわ景観総合計画【平成21年】	<p>●石川県景観形成基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自然景観の保全と創出 2) 歴史的・文化的な街並み景観や田園景観の保全と創出 3) 日常生活空間における快適な景観づくり 4) 未来に向けた新たな都市景観の創出 5) 広域的・連続的・拠点的な景観の保全・創出
石川県景観計画【平成20年】	<p>●景観形成重要地域における景観形成の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> ①海岸景観の保全・活用 ②河川景観の保全・再生 ③歴史的・文化的な景観の保全・継承 ④交通・観光拠点周辺の景観形成 ⑤公共施設における景観的配慮 ⑥景観阻害要因の改善

表 2-4 金沢港将来ビジョンの関連計画（金沢市）

金沢港将来ビジョンの関連計画	
金沢市の関連計画	
○港湾に関連する計画	
	-
○地域に関連する計画	
金沢市地域防災計画 【令和5年10月時点】	<p>【金沢市震災アセスメント調査】 想定地震による金沢港の被害は、液状化により大きな被害が予測され、復旧には相当の期間を要すると考えられる。今後の港湾整備の中で、岸壁の耐震補強を計画的に進めていく必要がある。</p> <p>【海上交通の確保】 海上交通は、陸上交通が不可能となった場合の救助活動や救援物資の受入れ等災害応急対策に欠かせない交通手段となる。</p>
第3次金沢交通戦略 【令和5年3月】	<p>●基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歩行者・自転車・公共交通優先のまちづくり ○交通から暮らしの質やまちの魅力を高めるまちづくり <p>●基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能な交通ネットワークの形成 ～地域の実情に応じた公共交通の充実～ 2. 交通機能の連携強化 ～便利で円滑な交通の実現～ 3. 交通利用環境の向上 ～快適で安全な利用環境づくり～ 4. 人が中心となるまちなかの形成 ～歴史と文化が薫る歩きたくなる空間づくり～ 5. 交通行動の転換 ～公共交通の利用促進と普及啓発～ <p>●重点的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しい交通システム（第1段階）の整備 ※バスのサービス水準向上 ○金沢 MaaSの推進 ○モビリティハブの整備 ○地域住民による移動手段の充実（地域運営交通） ○公共シェアサイクル「まちなり」の充実
金沢市景観計画 【令和3年7月（変更）】	<p>●景観形成の基本理念</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）特色ある自然・風土を保全・活用した景観形成 （2）歴史的資産を継承した景観形成 （3）地域の時間と暮らしに根ざした景観形成 <p>●景観まちづくりの目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 市民みんなの協働によって郷土に愛着と誇りが感じられるまち ② 一人ひとりの暮らしの中に息づく美しく快適なまち ③ 途絶えることなく後代に景観資産を引き継ぐまち <p>※金沢市景観総合計画（平成21年）も同様の基本理念・目標</p>
金沢市都市計画 マスタープラン 【令和元年】	<p>●基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ○金沢らしい資産を守り・磨き上げ・活かすことで、成長・発展していく交流拠点都市の形成 ○中心市街地を核とした都市機能の集積と公共交通重要路線沿線へ居住が誘導された集約都市の形成 ○都市と良好な農林業・自然環境との共生によって、市民誰もが安全で快適に暮らし働ける環境共生都市の形成 <p>●港湾に関する内容等</p> <p>金沢港クルーズターミナルの整備とともに、国・県・交通事業者との連携により、海の玄関口としての交通結節機能の強化を図る。</p> <p>金沢の魅力を国内外に発信することで、定期航路を拡充するなど、国際的な交流拠点としての交通機能強化を図る。</p>